

授業科目の区分等：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	必修
担当教員			
河合 博子			

授業のねらい（概要）	経営学卒業研究の実践的な方法や最新の知識や手法、自主的に学び続ける姿勢や課題解決力、創造的な学修態度を育てることを目的とする。各自の研究課題に則した研究計画を設定し、資料収集、先行研究の調査、報告、意見交換などを繰り返しながら、自己の考えを展開する能力を高めるとともに、研究成果の発表に向けた学修を行う。
授業計画	卒業論文/制作を完成させる時期である。  論文本体の個別指導、ゼミでのディスカッションを中心にすすめていく。  そのため半期を通じて (1) 教員の指導の下で、卒業論文/制作を完成させる。  毎回のトレーニングとして (1) 研究概要、論文の各章の要約と発表 (2) 上記に関するディスカッション (3) 論文本体の整合性や細部の個別指導  予習(時間)：論文本体の発表、教員の指示に従い発表の準備。(120) 復習(時間)：論文本体の修正、教員の指示に従い修正し改善させる。(120)
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	DP(商学部)の 2) 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3) 専門的分野の学びを。実務や社会で応用できる能力 DP(経営学科)の 2) 経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を多角的に理解し、活用できる能力 [身に付くスキル]論理的思考力と課題解決力
到達目標	(1) これまでの学びを踏まえ、教員の指導の下で卒業論文/制作を完成することができる。 (2) 卒業論文の全体構成および細部に関する発表を行い、質疑応答ができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	授業時間内あるいはMellyとグループ電子メールを使い、文章での解説を行うとともに、受講生全体指導、随時個別指導を行う。具体的には論文本体の執筆内容、レジュメ、スライド、口頭発表についてコメントなどを行う。
履修上の注意	大学での学びのまとめとして卒業論文に取り組む覚悟と気概をもってほしい。 また、研究や論文執筆は、個人のみ力でできるものではなく、関心を同じくする同僚とのディスカッションやアドバイスがあって、初めて可能になるものである。自らの研究に加えて、同僚ゼミ生の研究にも関心をもち、互いにより学びができる環境を作るよう心がけてほしい。 そのために遅刻や無断欠席は極力さけること。
成績評価の方法・基準	ゼミ活動における発表・相互コメント・課題など50%、論文本体50%
教科書	桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版スキルを学ぶ21のワーク』実業出版 2015年 1296円 ISBN-10: 4407336145 ISBN-13: 978-4407336146
参考書・教材	随時指定・紹介する。
備考	演習科目(ゼミ形式)
教員との連絡方法	基本的にMellyとグループ電子メールを使用する。Lineは原則として使用しない。